



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2601		
科目名	危機管理基礎演習 I		
担当教員	安藤 貴世		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 3		
講義室	1303	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-H [理論的思考力・批判的思考力] 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-F [探求力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発（5%） C1 倫理的思考・社会認識（5%） E1 学識と専門技能（10%） F1 探求と論拠（25%） F2 課題解決（10%） H1 論理的思考（10%） I1 理解・分析と読解（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%） M1 総合的・応用的学修（5%）		
教員の実務経験	2006年から2009年まで3年間、外務省において任期付き職員として勤務し、外交実務を経験しました。 国際刑事裁判所の設立に際し、日本政府代表随員として、国連において開催された設立準備委員会と締約国会合に参加しました。 また、2016年より現在まで、法務省難民審査参与員として難民認定審査の業務に携わっています。 これらの実務上の知見と経験を活かし、実際に日本と諸外国との外交関係が形作られていく様子や、現実の国際的な諸問題の解決における国際法の適用、日本における難民認定の実情などにも触れつつ演習を行います（第1回、第15回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進行期 ～ 3 発展期		

科目概要・キーワード	危機管理の研究領域の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するのに必要なスキルと知識を統合的に学ぶために、危機管理に関する基礎的な演習を行います。危機管理学の専門基幹科目における法学系科目、又は、専門展開科目における災害マネジメント、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ若しくは情報セキュリティに属する危機管理系科目を担当する教員が「個別クラス」を担当し、教員の研究領域の特性に即して研究手法等を指導します。3年次以降のゼミナールにおける、より専門的な研究活動への橋渡しの意味をもちます。本科目では、研究のテーマ決定や研究計画の検討からはじめて、研究を進め、その成果をプレゼンテーションによって表現することまでを行います。授業形態は、演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 国際法、危機管理、研究テーマの構築、ゼミナールへの橋渡し	
授業の趣旨	■副題 危機管理をめぐる国際問題と国際法 ■授業の目的 本演習では、危機管理に関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。 ■授業のポイント 上記の①～⑧に加え、将来のキャリアを見据えた学びにおいて、⑥自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、⑦倫理観と公共心、⑧省察力の各観点について自覚を持つことも望まれます。 また、特に本演習では、危機管理に関する国際的な諸問題について、「国際法」を手掛かりに理解し、その解決方法などについて自らの言葉で議論することができるようになることを射程とします。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・危機管理に関する国際的な諸問題について関心を有し、「国際法」を手掛かりに理解し、その解決方法などについて自らの言葉で議論することができる（第1回～第15回）。 ・国際的な時事問題に注目し、日本との関わりや、国内法および国際法双方の側面からの当該問題の解決について、自らの言葉で説明できる（第1回～第15回）。	
成績評価方法	■授業におけるプレゼンテーション 1回（50%）：適用ルーブリック E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1 （評価の観点） レジュメの内容（必要事項がすべて盛り込まれているか、分かりやすいレジュメとなっているか）、プレゼンテーションの論理構成（指示された内容について明解な論理構成に基づく報告となっているか）、プレゼンテーションの手法（時間が守られているか、聞き手に分かりやすい話し方か）などについて評価します。 （フィードバックの方法） 報告内容について解説するとともに、評価の観点に基づいて報告後に講評を行います。 ■授業参加度 毎回（50%）：適用ルーブリック B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K2、M1 （評価の観点） 他者の報告に対する自らの疑問・考察などを積極的に発言しているか、他者から示された意見や疑問に対し、自ら考えフィードバックを行っているかなど、演習授業の構築への参加について評価します。 （フィードバックの方法） 授業のまとめの際に、各自の議論への参加について講評します。	
履修条件	2年次前期に国際法を履修することを推奨します。	
履修上の注意点	演習形式の授業ですので、臆せず自分の意見を述べ、積極的に議論に参加して下さい。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとおり、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 担当教員の実務経験を踏まえて、演習の導入として、具体的事例への国際法の適用について解説します。 ③予習（60分） シラバスの内容を理解する。 ④復習（60分） 授業の狙いや内容などについて確認する。

2	①授業テーマ プレゼンテーションの方法 ②授業概要 プレゼンテーションの方法について、レジュメ作成も含め修得する。また、各自の報告テーマおよび報告順についても決定する（E1、F1、K1、K2）。 ③予習（60分） 自身が報告したいテーマ候補について検討する ④復習（60分） プレゼンテーションの方法について復習する。
3	①授業テーマ 資料の収集・検索 ②授業概要 国際法や隣接関連分野の学習に際して必要な資料（書籍、論文、その他）の検索・収集方法などを身に付ける（E1、F1、I1）。 ③予習（60分） 関心のあるテーマについて、どのような資料が有用か検討する。 ④復習（60分） 資料の検索方法について、演習における配布資料をもとに十分に復習する。
4	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキストを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分） ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
5	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキストを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分） ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
6	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキストを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分） ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
7	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキス

	トを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分） ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
8	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキストを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分） ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
9	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキストを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分） ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
10	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキストを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分） ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
11	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキストを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分） ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
12	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキストを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分）

	ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
13	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキストを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分） ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
14	①授業テーマ 国際法のテーマに関する報告およびディスカッション ②授業概要 『国際法で世界がわかる』の中の1つの章について、担当者が報告、論点整理を行ったうえで、受講者全員でディスカッションを行う（B1、C1、E1、F1、F2、H1、I1、K1、K2、M1）。 ③予習（90分） 報告者はレジュメの作成、報告準備、論点整理等を行う。他の受講者は、予めテキストを読み、疑問点や自分の意見等をまとめる。 ④復習（30分） ディスカッションの内容、教員による国際法に関する基本事項・重要事項の解説などについて確認し、まとめる。
15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 これまでの14回の演習を総括し、危機管理に関する諸問題と国際法による解決について考察する（E1、F1、F2、H1、K2、M1）。 担当教員の実務経験を踏まえて、演習のまとめとして、具体的事例への国際法の適用について解説します。 ③予習（60分） 自身の報告、授業全体のディスカッションを振り返る。 ④復習（60分） 演習全体を振り返り、今後の研究計画および学修計画を立てる。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎1・2（RMGT1215・RMGT1216）」・「危機管理基礎演習Ⅱ（RMGT2602）」・「ゼミナールⅠ～Ⅳ（RMGT4601・RMGT4602・RMGT4603・RMGT4604）」・「危機管理特殊研究1～4（RMGT4611・RMGT4612・RMGT4613・RMGT4614）」と関連します。とくに、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」への橋渡しの意味をもちます。 ②講義科目については、国際法（RMGT3451）、人権論（RMGT3423）、国際人道法（RMGT3453）、安全保障論2（国家安全保障）（RMGT3554）と関連します。
教科書	以下の2冊を毎回持参して下さい。 ①森川幸一ほか『国際法で世界がわかる』（岩波書店、2016年） ②植木俊哉・中谷和弘編『国際条約集2023年版』（有斐閣、2023年）
参考書・参考URL	初回授業および各回の授業において適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に伝えます。 ■オフィスアワー 水曜5限（予定）。それ以外の時間帯については、メールで事前にアポイントメントを取って下さい。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%：パブリックセキュリティ30%：グローバルセキュリティ40%：情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 法学50%：危機管理学50%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.